

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。



発生予察特殊報第 1 号

病虫害名 トマト黄化病
病原ウイルス名： トマト退緑ウイルス (*Tomato chlorosis virus* : ToCV)
作物名 トマト
発生地 域 京都府南部の一部施設

1 発生経過

令和 3 年 6 月、京都府南部の 2 地域の施設内でトマトの葉に退緑及び黄化症状を示す株が認められ、農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、府内では未発生の「トマト退緑ウイルス (*Tomato chlorosis virus* : ToCV) による「トマト黄化病」と確認された。

本病は国内では平成 20 年に初めて確認され、近隣の滋賀県、兵庫県等、現在では 22 都県で確認されている。

2 病徴

発病初期には葉の一部の葉脈間が退緑及び黄化し (写真 1)、症状が進展すると病徴は葉全体に及ぶ。病徴は株の下位から中位葉にかけて現れやすく (写真 2)、えそ症状が現れる場合もある (写真 3)。これら症状が激しくなると、株の生育が抑制され減収する。なお、この病徴は生理障害の苦土 (マグネシウム) 欠乏の症状に類似し、外観からの判別は困難である。

3 病原ウイルスの特徴

- (1) 病原はクリニウイルス属のウイルスで、タバココナジラミ (バイオタイプ B 及びバイオタイプ Q)、オンシツコナジラミにより媒介される (写真 4)。
- (2) ウイルスを吸汁したコナジラミは数時間から数日間ウイルス媒介能 (半永続伝搬) を保持する。
- (3) クリニウイルス属のウイルスは、経卵、汁液、種子及び土壌伝搬はしないとされている。
- (4) 本ウイルスの感染は、ナス科、アカザ科、キク科、ゴマノハグサ科、シソ科、ナデシコ科、フクロソウ科、リンドウ科で確認されている。

4 防除対策

- (1) 発病株は直ちに抜き取り、ポリ袋等に密閉してほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- (2) 育苗期から媒介虫であるコナジラミの防除を徹底し、苗から持ち込まないよう注意する。
- (3) 施設の開口部に 0.4mm 目以下の防虫ネットを展張し、コナジラミの侵入を防ぐ。
- (4) コナジラミの発生源となるので、施設内及び周辺の雑草は徹底して除去する。
- (5) コナジラミを周辺に分散させないため、栽培終了後に全株を地際から切断または抜根し、施設を密閉して死滅させる。
- (6) コナジラミの防除に際し、薬剤感受性低下を防ぐため、同一グループの薬剤の連用を避ける。



写真1 葉の一部の葉脈間が退緑・黄化



写真2 下位から中位葉に進展した病徴



写真3 下位から中位葉にかけての黄化・えそ症状

タバココナジラミ



成虫



幼虫

オンシツコナジラミ



成虫



幼虫

写真4 媒介虫のコナジラミ

注意報

3 病 第 2 0 号
令和 3 年 8 月 2 5 日

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

病虫害発生予察注意報第 2 号

作物名 水稻（中晩生：ヒノヒカリ、京の輝き、祝、新羽二重糯）
病虫害名 穂いもち

- 1 発生地域 府内全域
- 2 発生量 平年比多い
- 3 防除時期 穂ばらみ期～穂揃期
- 4 注意報発令の根拠

- (1) 8月中旬に行った巡回調査の結果、葉いもちの発生は平年比多い（+）（表1）。
- (2) 8月中旬に行った巡回調査の結果、穂いもちの発生は平年比やや多い（+）（表2）。
- (3) 箱施用薬剤の効果が低下する時期を迎えている。
- (4) 向こう1か月の気温はほぼ平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並又は少ないと予想されている（8月19日大阪管区气象台発表）。

表1 葉いもち巡回調査結果(8月第3～4半旬)

地域	項目	本年	平年値
山城	発生ほ場率（%）	83.3	30.0
	発病株率（%）	21.3	3.6
	発病葉率（%）	1.01	0.05
南丹	発生ほ場率（%）	66.7	25.5
	発病株率（%）	17.3	5.0
	発病葉率（%）	1.35	0.09
中丹	発生ほ場率（%）	33.3	15.0
	発病株率（%）	14.7	0.9
	発病葉率（%）	0.59	0.11
丹後	発生ほ場率（%）	33.3	20.0
	発病株率（%）	5.8	3.4
	発病葉率（%）	0.61	0.09
府全体	発生ほ場率（%）	53.3	22.7
	発病株率（%）	14.1	3.4
	発病葉率（%）	0.91	0.09

※発病葉率：上位2葉の発病率。

表2 穂いもち巡回調査結果(8月第3～4半旬)

地域	項目	本年	平年値
山城	発生ほ場率(%)	0.0	12.5
	発病株率(%)	0.0	0.5
	発病穂率(%)	0.00	0.03
南丹	発生ほ場率(%)	11.1	21.1
	発病株率(%)	4.9	3.5
	発病穂率(%)	0.47	0.19
中丹	発生ほ場率(%)	0.0	10.0
	発病株率(%)	0.0	1.3
	発病穂率(%)	0.00	0.07
丹後	発生ほ場率(%)	33.3	5.6
	発病株率(%)	1.8	0.4
	発病穂率(%)	0.18	0.02
府全体	発生ほ場率(%)	14.8	11.7
	発病株率(%)	2.2	1.7
	発病穂率(%)	0.22	0.09



写真 葉いもち(左) と 穂いもち(右)

5 防除上の留意事項

- (1) 上位葉へ進展した葉いもちの病斑は、穂いもちの重要な伝染源となる。
- (2) ヒノヒカリ、祝など発病しやすい品種や、すでに葉いもちが多発しているほ場、山間部では特に注意し、防除適期に薬剤防除を実施する。
- (3) 出穂後曇雨天が続く場合には、傾穂期前後にも防除を行う。特に枝梗は遅くまで菌の侵入を受けるので、枝梗いもちの発生に注意する。
- (4) 葉いもちの発生が多い場合は、治療効果がある薬剤(カスガマイシン剤:商品名カスミン剤等、フェリムゾン・フサライド剤:商品名ブラシン剤等)で防除する。
- (5) 防除の際には、周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意する。
- (6) 農薬の選択に当たっては普及センター、農協等と相談し、使用時期(収穫前日数)や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用する。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を参照のこと。
(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)

<参考>

京都府推奨品種の中生品種:京の輝き、祝、新羽二重糯
 " 晩生品種:ヒノヒカリ

京都府病虫害防除所より、9月の発生予察情報が発表されました。

病虫害発生予察第7号(9月) (抜粋)

作物名	病虫害名	予想発生量 (平年比(前年比))
イネ	穂いもち病(中晩生) 紋枯病 (中晩生) トビイロウンカ (中晩生) コブノメイガ (晩生) 斑点米カメムシ類 (中晩生)	多 (多) 並 (並) 並 (少) 並 (少) 並
ブドウ	べと病	並 (多)
果菜類	うどんこ病 ハモグリバエ類 アザミウマ類	やや多 (多) やや少 (やや少) 並 (やや少)
キュウリ	褐斑病 疽病	炭 並 (並) 並 (並)
ネギ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ シロイチモジヨトウ	並 (やや多) 少 (やや多) 多 (やや多)
野菜全般	ハダニ類 ブラムシ類 ハスモンヨトウ	ア 多 (やや多) 並 (並) 並 (並)

病虫害発生予察**注意報**第2号

1. 作物名 水稻(中晩生:ヒノヒカリ、京の輝き、祝、新羽二重糯)
2. 病虫害名 **穂いもち**

病虫害発生予察**注意報**第3号

1. 作物名 ネギ、豆類(黒大豆、エダマメ、アズキ)、野菜類
2. 病虫害名 **シロイチモジヨトウ**

注意報

京都府病虫害防除所より、

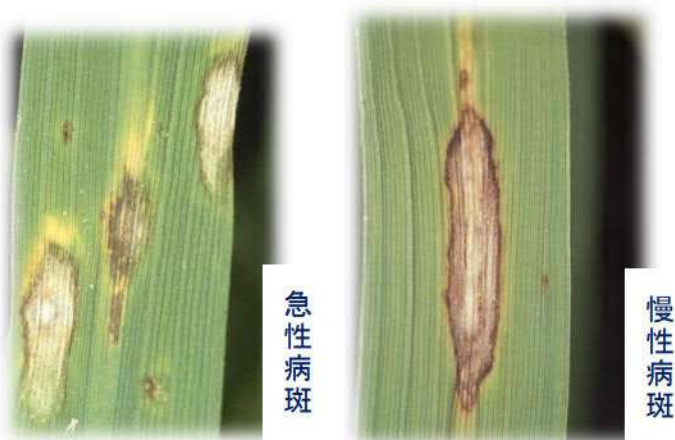
病虫害発生予察**注意報**第2号、3号が発表されました。

病虫害発生予察**注意報**第2号

作物名 水稻(中晩生:ヒノヒカリ、京の輝き、祝、新羽二重糯)

病虫害名 穂いもち

1. 発生地域 府内全域
2. 発生量 平年比多い
3. 防除時期 穂ばらみ期～穂揃期



・ **穂ばらみ期** : 幼穂形成期の終了する出穂前18日頃から出穂期までの期間

・ 出穂 : 茎から穂が出た状態。(茎から粃が1粒でも出ていれば出穂。)

・ 出穂期 : 4～5割の穂が出た時期

・ **穂揃期** : 8～9割の穂が出た時期

稲の基本的な生育では、出穂始(走り穂)から2～4日程度で出穂期、出穂期から2～4日程度で穂揃期になります。

防除上の留意事項

- (1) 上位葉へ進展した葉いもちの病斑は、穂いもち重要な伝染源となる。
- (2) ヒノヒカリ、祝などの発病しやすい品種や、すでに葉いもちが多発しているほ場は、山間部では特に注意し、防除適期に薬剤防除を実施する。
- (3) 出穂後曇雨天が続く場合には、傾穂期前後にも防除を行う。特に枝梗は遅くまで菌の侵入を受けるので、枝梗いもちの発生に注意する。
- (4) 葉いもちの発生が多い場合は、治療効果がある薬剤で防除する。
- (5) 防除の際には、周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意する。
- (6) 農薬の選択に当たっては普及センター、農協等と相談し、使用時期(収穫前日数)や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用する。

1. いもち病 防除剤

- | | | |
|------------|-------------------|-----------------|
| ・ブラシン粉剤DL | 3~4kg/10a | 収穫7日前まで / 2回以内 |
| ・ブラシンフロアブル | 1000倍 60~150L/10a | 収穫7日前まで / 2回以内 |
| ・トライフロアブル | 2000倍 60~150L/10a | 収穫14日前まで / 2回以内 |

2. いもち病、カメムシ類、ウンカ類 同時防除剤

- | | | |
|-----------------|-------------------|---|
| ・ノンプラスジョーカー粉剤DL | 3~4kg/10a | 収穫7日前まで/ 2回以内
[いもち病:ウンカ類:カメムシ類:コブノメイガ 他] |
| ・ノンプラストレボン粉剤DL | 3~4kg/10a | 収穫7日前まで/ 2回以内
[いもち病:ウンカ類:カメムシ類(4kg) 他] |
| ・ブラシンキラップ粉剤DL | 3~4kg/10a | 収穫14日前まで/ 2回以内
[いもち病:ウンカ類:カメムシ類:ごま葉枯病 他] |
| ・トライスタークル粉剤DL | 3~4kg/10a | 収穫14日前まで / 2回以内
[いもち病:ウンカ類:カメムシ類:ツマグロヨコバイ] |
| ・ブラシンジョーカーフロアブル | 1000倍 60~150L/10a | 収穫14日前まで/ 2回以内
[いもち病:ウンカ類:カメムシ類 他] |
| ・ブラシンキラップフロアブル | 1000倍 60~150L/10a | 収穫14日前まで/ 2回以内
[いもち病:ウンカ類:カメムシ類] |

いもち病が多発すると、品目により在庫(JA・メーカー)が切れる事が想定されます。ご注文の際は、在庫を確認の上、御注文頂きますようお願いいたします。

尚、在庫が切れた場合、同等剤を紹介させて頂きますので、ご相談下さい。

注 意 報

3 病 第 2 1 号
令和 3 年 8 月 2 5 日

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

病虫害発生予察注意報第 3 号

- 1 作物名 **ネギ、豆類（黒大豆、エダマメ、アズキ）、野菜類**
- 2 病虫害名 **シロイチモジヨトウ**
- 3 発生地域 **府内全域**
- 4 加害時期 **11月まで**
- 5 発生量 **平年比多い**
- 6 注意報発令の根拠

(1) 8月中旬の病虫害巡回調査において、ネギでの本虫幼虫発生量は小株で平年並、大株で発生を認めている（表1）。被害株率は過去10年間で最も高い（+）（表2）。

表1 ネギでのシロイチモジヨトウ幼虫寄生株調査(8月中旬)

株の種類	項目	R3	平年値	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23
小株	幼虫数(頭/株)	0.01	0.03	0.11	0.08	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	寄生株率(%)	1.3	1.5	2.0	2.6	4.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大株	幼虫数(頭/株)	0.11	—	0.00	0.00	0.07	0.03	—	—	—	—	—	—
	寄生株率(%)	8.5	—	0.0	8.0	5.0	3.0	—	—	—	—	—	—

* 小株:葉長40cm未満、大株:葉長40cm以上。

表2 ネギでのシロイチモジヨトウ被害株調査(8月中旬)

項目	R3	平年値	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23
被害株率(%)	12.3	1.6	3.5	2.6	4.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
被害発生ほ場率(%)	57.1	17.9	43.8	60.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

* 小株(葉長40cm未満)及び大株(葉長40cm以上)の平均値

- (2) 8月中旬の病虫害巡回調査において、アズキで本虫幼虫の発生を認めている（+）。
- (3) フェロモントラップへの誘殺虫数(7月第4半旬～8月第3半旬の合計値)は、京田辺市で97.0頭(平均24.7頭)と多い（+）。また、亀岡市で68.6頭(平均:66.8頭)、京丹後市で48.4頭(平均:48.0頭)と平成30年から調査を開始した2地点の過去3年間の各平均と同程度となっている。（図1）。

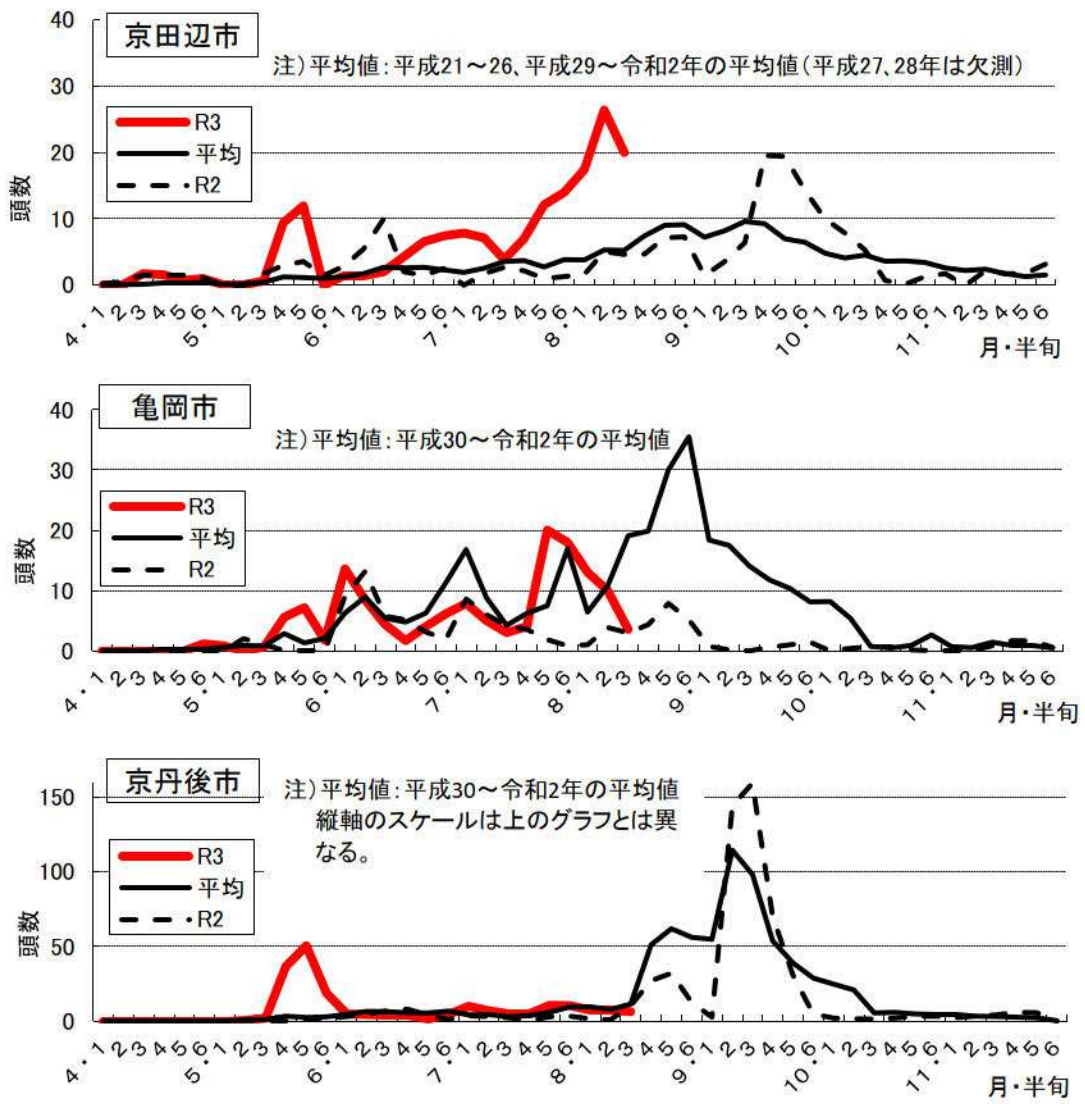


図1 シロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺状況



写真 シロイチモジヨトウ幼虫(左)と卵塊(中)、ネギの被害(右)

7 防除上の留意事項

- (1) 中老齢幼虫の薬剤感受性は低下する。また、ネギでは葉の内部に潜り込むと薬剤による防除効果が低下するので、ほ場をこまめに見回り、若齢期に防除を行う。
- (2) 性フェロモン剤による交信攪乱や黄色蛍光灯を組み合わせた防除を考慮する。
- (3) 被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、残さは一箇所にとめて積み上げ、表面をビニル等で被覆する等、適切に処分する。
- (4) 本種は寄主範囲が広く、ネギ以外に豆類、野菜類、花き類を加害するので注意する。
- (5) ネギでの薬剤散布は表3を参考に、使用薬剤は異なる系統のものを用い、同一系統の薬剤の連用は避ける。なお、病虫害防除所で平成29年に実施した薬剤殺虫効果試験の結果は、平成29年9月21日付け「病虫害発生予察注意報第4号」を参照のこと。

http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/h29chui4_shiroichi.pdf

- (6) 農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用する。最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」で確認すること。

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/index.html

表3「ネギ」でシロイテモジヨウに登録のある主な農薬（令和3年8月11日現在）

IRACコード*	農薬名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数	備考
1A	ランネット45DF	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内	
3A	アグロスリン乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内	
	アディオソ乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	トレボン乳剤	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	トレボンEW	1,000倍					
	テルスター水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
4A	(28) スタークル顆粒水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤)	50倍、 0.5L/㎡注/ セルトレイ、ペーパーポット	定植前日～定植時	1回	灌注	4回以内 (但し、は種時の土壌混和、育苗トレイへの 灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、 生育期の株元灌注は1回以内、散布及び 定植後の株元散布は合計2回以内)	
	(28) アベイル粒剤	40g/ セルトレイ、ペーパーポット	育苗期後半～定植当日	1回	株元散布	アセアブド(モスビラン:IRACコード4A) 3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回 以内、播付時の土壌混和及び定植当日ま での株元散布は合計1回以内) シアントラコアロール(ベネビアOD:IRACコード 28) 4回以内(但し、定植時までの処理は1回以 内、定植後の処理は3回以内)	
	(28) キックオフ顆粒水和剤	100倍 0.5L/㎡注/ セルトレイ、ペーパーポット	定植前日～定植時	1回	灌注	クロフトラコアロール(フレバソソ:IRACコード2 8) 4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3 回以内) シノフラン(スタークル:IRACコード4A) 4回以内(但し、は種時の土壌混和、育苗ト レイへの灌注及び定植時の株元散布は合計 1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、 散布及び定植後の株元散布は合計2回以 内)	
5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
6	アフーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	(15) アフームエクセラ顆粒水和剤	1,000～1,500倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	イマクチン安息香酸塩(アフーム:IRACコード 6) 3回以内 ルフェスロン(マッチ:IRACコード15) 3回以内	
	アニキ乳剤	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	(28) ポリアムガンダム顆粒水和剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	イマクチン安息香酸塩(アフーム:IRACコード 6) 3回以内 クロフトラコアロール(フレバソソ:IRACコード2 8) 4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3 回以内)	
11A	エコマスターBT	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—	野菜類で登 録
	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—	野菜類で登 録
	デルフィン顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—	野菜類で登 録
	フローバックDF	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—	
13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
15	アタブロン乳剤	2,000倍	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	カスケード乳剤	4,000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	マッチ乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ノーモルト乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
18	マトリックフロアブル	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ファルコンフロアブル	4,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
	ロムダンフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
21A	(22B) ハチハチ乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	(22B) アクセルキングフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	トルフェビラト(ハチハチ:IRACコード21 A) 2回以内 メタフルソソ(アクセル:IRACコード22B) 2回以内	
22A	トルネードエースDF	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	ファイントリムDF	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	
22B	アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
28	ブレバソソフロアブル5	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	4回以内(灌注は1回以内、散布は3 回以内)	
	ベネビアOD	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内(定植時までの処理は1回 以内、定植後の処理は3回以内(但 し、株元灌注は1回以内))	
	ベリマークSC	400倍 2,000倍、 株元灌注(0.5L/㎡)	育苗期後半～定植当日 収穫7日前まで	1回 1回	灌注 株元灌注	4回以内(定植時までの処理は1回 以内、定植後の処理は3回以内(但 し、株元灌注は1回以内))	
	フェニックス顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ヨーバルフロアブル	2,500～5,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	4回以内(灌注は1回以内、散布は3 回以内)	
	グレーション乳剤	2,000～3,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
30	プロフレアSC	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
UN**	ブレオフロアブル	1,000倍	収穫3日前まで	4回以内	散布	4回以内	
交信かく乱剤 ***	コンフューザーV	100本/10a (41g/100本製剤)	対象作物の栽培全期 間	—	—	作物の生育に支障のない高さに支持棒を立て支持棒 にディスプレイを巻き付け固定し圃場に配置する。	野菜類で登 録
	ヨトウコン-S	100～500本/10a (露地)	シロイテモジヨウの発生初 期～終期	—	—	作物上に支柱等を用いて固定する。 露地の場合:100～500本(20cmチューブ)/10a	シロイテモジヨウ が加害する農 作物

*殺虫剤コード。殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の運用を防ぐことができる。

**作用機構が不明あるいは不明確な薬剤

***IRACの分類に該当しないもの

注意報

病虫害発生予察**注意報**第3号

作物名 ネギ、豆类(黒大豆、エダマメ、アズキ)、野菜類

病虫害名 **シロイチモジヨトウ**

1. 発生地域 府内全域
2. 加害時期 11月まで
3. 発生量 平年比多い

防除上の留意事項

- (1) 中老齢幼虫の薬剤感受性は低下する。また、ネギでは葉の内部に潜り込むと薬剤による防除効果が低下するので、ほ場をこまめに見回り、若齢期に防除を行う。
- (2) 性フェロモン剤による交信攪乱や黄色蛍光灯を組み合わせた防除を考慮する。
- (3) 被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、残さは一箇所にとめて積み上げ、表面をビニル等で被覆する等、適切に処分する。
- (4) 本種は寄主範囲が広く、ネギ以外に豆类、野菜類、花き類を加害するので注意する。
- (5) ネギでの薬剤散布は、異なる系統のものをを用い、同一系統の薬剤の連用は避ける。
- (6) 農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用する。



成虫

■ ネギ シロイチモジヨトウ の防除体系 例

発生が認められたら

UN プレオフロアブル

[1000倍 収穫3日前まで / 3回以内]

30

グレーシア[®] 乳剤

[2000~3000倍 収穫7日前まで / 2回以内]

プロフレア^{SC}

[2000~4000倍 収穫前日まで / 3回以内]

11A

エコーレス[®] BT

[1000倍 発生初期
但し、収穫前日まで / -]

ローテーション散布

5

ディアナ^{SC}

[2500~5000倍
収穫前日まで / 2回以内]

15

カスケード 乳剤

[4000倍 収穫14日前まで / 3回以内]

28

バネピア^{OD}

[2000倍 収穫前日まで / 3回以内]

ヨーバルフロアブル

[2500~5000倍
収穫3日前まで / 3回以内]

プロバリン
フロアブル^S

[2000倍 収穫3日前まで / 3回以内]

フェニックス
顆粒水和剤

[2000~4000倍
収穫7日前まで / 3回以内]

6:15

アフームエクセラ[®] 顆粒水和剤

[アフーム+マッチ]

[1000~1500倍 収穫7日前まで / 3回以内]

シロイチモジヨトウ 登録薬剤

2021.8現在

IRAC コード	薬剤名	作物名							希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数
		ねぎ	たまねぎ	わけぎ	あさつき	かんしょ	さやえんどう	実えんどう			
1A	ランネート45DF	○							1000倍	収穫7日前まで	4回以内
3A	アグロスリン乳剤	○							1000倍	収穫7日前まで	5回以内
				○						収穫3日前まで	
		○						2000倍	収穫7日前まで	2回以内	
	○							2000倍	収穫7日前まで	3回以内	
	○								1000倍		収穫7日前まで
○						○	○	1000倍	収穫21日前まで	2回以内	
								収穫前日まで			
4A	スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	○							50倍 / 定植前日～定植時 / 灌注		1回
4A 28	アベイル粒剤 (ベネビア+モスピラン)	○							使用土壌約1.5～4L 当り40g / 育苗期後半～定植当日 / 株元散布		1回
5	スピノエース顆粒水和剤	○		○	○				5000倍	収穫3日前まで	3回以内
	ディアナSC	○	○						2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内
6	アニキ乳剤	○							1000～2000倍	収穫3日前まで	3回以内
		キャベツ							2000倍		
	○		○	○	○			1000～2000倍	収穫7日前まで		
	しゅんぎく							2000倍		2回以内	
6 15	アフームエクセラ 顆粒水和剤 (アフーム+マツチ)	キャベツ、ブロッコリー							1000倍	収穫7日前まで	3回以内
		○							1000～1500倍		
11A	エコマスターBT	○							1000倍	発生初期 但し、 収穫前日まで	-
	豆類(種実)、豆類(未成熟)							1000～2000倍			
	ゼンターリ顆粒水和剤	野菜類(はくさいを除く)							1000倍	発生初期 但し、 収穫前日まで	
13	コテツフロアブル	キャベツ							2000倍	収穫前日まで	2回以内
		○								収穫7日前まで	
15	カスケード乳剤	キャベツ							2000～4000倍	収穫7日前まで	2回以内
							○	○	4000倍	収穫前日まで	
	○								4000倍	収穫14日前まで	3回以内
15	ノーモルト乳剤						○		2000倍	収穫前日まで	2回以内
		○								2000倍	

IRAC コード	薬剤名	作物名						希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数
		ねぎ	たまねぎ	わけぎ	あさつき	かんしょ	さやえんどう			
15	アタブロン乳剤	○		○	○			2000倍	収穫21日前まで	3回以内
							○		収穫前日まで	2回以内
	マッチ乳剤	○		○				2000倍	収穫7日前まで	3回以内
									収穫21日前まで	
18	マトリックフロアブル	○		○	○			1000～2000倍	収穫7日前まで	3回以内
	ロムダンフロアブル	○						2000倍	収穫7日前まで	3回以内
21A F: 39(C1)	ハチハチ乳剤	○						1000倍	収穫7日前まで	2回以内
21A F: 39(C1) 22B	アクセルキング フロアブル (ハチハチ+アクセル)	○						1000倍	収穫7日前まで	2回以内
22A	トルネードエースDF	○						1000倍	収穫14日前まで	2回以内
22B	アクセルフロアブル	○						1000倍	収穫前日まで	2回以内
28	フェニックス 顆粒水和剤						○	2000倍	収穫前日まで	2回以内
		○						2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内
	プレバソンフロアブル5	○						2000倍	収穫3日前まで	3回以内
	ベネビアOD		○					2000倍	収穫14日前まで	3回以内
		○							収穫前日まで	
		ベリマークSC	○						2000倍 0.5L/平方m / 収穫7日前まで / 株元灌注 400倍 / 育苗期後半～定植当日 / 灌注	1回
	ヨーバルフロアブル	キャベツ、はくさい						2500～5000倍	収穫前日まで	3回以内
		○							収穫3日前まで	
28 4A	キックオフ顆粒水和剤 (プレバソン+スタークル)	○						100倍 / 定植前日～定植時 / 灌注	1回	
	ミネクトデュオ粒剤 (ベリマーク+アクタラ)	○						使用土壌約1.5～4Lあたり40g / 育苗期後半 6kg/10a 収穫3日前まで / 株元散布	1回 3回以内	
30	グレースシア乳剤	○						2000～3000倍	収穫7日前まで	2回以内
		非結球レタス、レタス						2000倍	収穫3日前まで	
	プロフレアSC	○						2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内
UN	プレオフロアブル	○						1000倍	収穫3日前まで	4回以内
			○						収穫7日前まで	
		キャベツ						1000～2000倍	収穫前日まで	2回以内
		トマト、ミニトマト								
豆類(未成熟)						1000～2000倍	収穫前日まで	2回以内		
豆類(種実、ただし、だいず、らっかせいを除く)、だいず										